

# ちまたし郷土

## 漁業の町「牛深」



牛深小学校 西指亮英 六年

牛深市は、美しい海にかこまれたところで

す。「藍より青く」といわれている海には、きれいな魚がたくさんいます。そのため、海中公園ができています。このグラスボートに乗って、海の中をのぞいてみると、赤や青のさんごや、いろとりどりの魚が泳いでいます。

まわりが海にかこまれているので、昔から漁業がとてもさかんです。昔は、小さな舟で魚をとっていましたが、今は、大型船で、東シナ海の方にかけてたりすることもあります。しかし、このごろは、とる漁業だけではなく、養殖もよくさかんにするため、栽培漁業センターもでき、タイやハマチ、カレイなどの魚が、多く養殖よくされています。とれた魚は、漁業組合に水あげされ、いけすには、しんせん魚が泳いでいます。また、トラツクで、その日のうちに熊本に運ばれます。みなさんの食べている魚は、牛深の魚かもしれ

ません。

町の中を見回してみても、魚がほしてあつたり、ウニわりをしていたりして、ほとんどの人が、漁業に關した仕事をしています。それで、大漁を祝う祭りとして、四月初めにハイヤ祭りが行われています。

「ヨイサー、ヨイサー。」というかけ声に合わせて、水あげのかっこをしたり、船をこぐかっこをしたりして、小さな子どもたちから、大人の人まで、町中をおどりまわります。

港では、大漁旗をかけた船団のパレードがあり、祭りの間は、観光客でにぎわいます。工場はい水などで海がよごされているというニュースを聞くことがあります。つりが楽しめ、夏には、海水浴にたくさんの方が来る美しい牛深の海であってほしいと思います。

### 告知板

<p>●熊本県移動芸術祭のお知らせ</p> <p>熊本県教育委員会では、毎年、県民の皆さんに広く生の芸術芸能を鑑賞していただくため、熊本県移動芸術祭を県下十一の会場で、開催地の教育委員会と共催で実施しています。</p> <p>本年度も次の日程により開催しますので、多数の方々のご鑑賞をお待ちしています。</p> <p>なお、入場料は無料です。</p>	<p>楽 響 交</p> <p>▽公演 熊本交響楽団</p> <p>期日 十月二十一日(日)</p> <p>会場 富合町富合中体育館</p> <p>期日 十一月十九日(日)</p> <p>会場 大矢野町大矢野中体育館</p> <p>▽公演 熊本県民謡協会</p> <p>期日 九月四日(日)</p> <p>会場 多良木町多良木小体育館</p> <p>期日 九月十八日(日)</p> <p>会場 甲佐町中央公民館</p> <p>期日 十一月六日(日)</p> <p>会場 西原村公民館</p>	<p>劇 形 人</p> <p>▽公演 肥後いわが保存会</p> <p>期日 九月十一日(日)</p> <p>会場 七城町中央公民館</p> <p>期日 十一月六日(日)</p> <p>会場 北部町川上小体育館</p>	<p>郷土芸能</p> <p>▽公演 日本民謡協会熊本支部</p> <p>期日 十月二十三日(日)</p> <p>会場 鹿央町公民館</p> <p>▽公演 日本民謡協会熊本支部</p> <p>期日 十一月六日(日)</p> <p>会場 清和村民体育館</p> <p>▽公演 熊本県民謡協会</p> <p>期日 十一月十二日(日)</p> <p>会場 長洲町中央公民館</p>	<p>民 謡</p> <p>▽公演 熊本県民謡協会</p> <p>期日 十一月十二日(日)</p> <p>会場 長洲町中央公民館</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------



## 明日の熊本



### 私の提言

## 取材を生かし 熊本を活かせ

NHKチーフディレクター 笹川 紀久雄

熊本に来てこの八月で一年になります。県内各地に出かけて、しばしば耳にするのが「あん人は「肥後もっこす」だけん難しかった」という言葉です。

しかし実際に会って話をきくと、取り繕うことなく実に率直に、本音で語ってくれる人が多いという印象を受けています。

だから私は、熊本の人々の性格の代名詞として使われる「肥後もっこす」とは、大胆率直にものを言う人だと思っています。

ただ一方に熊本の人を評して、「足の引っぱり合いが好き」だとか、「議論倒れ」と言うのは「もっこす」が高じて、ともすると人の話に耳を貸さず、わが道以外に道なしとして、頑(かたくな)に他人の意見を拒むからではないでしょうか。

私もTV番組を制作しているデ

イレクターが心掛けていることの一つに、「様々な人に会っていろいろな話を聞く」というのがあります。世の中には百人百様の主義主張がありますが、その中からの確な情報を選びだして判断しなければなりません。自分勝手な選択やあやふやな決断は、仲間からも外部からもこっぴどく叩かれます。

したがって自分の意見を主張する時には、その裏づけになる取材を徹底的にします。

本を読みあさりませんが、自分の足による取材が第一条件です。

連戦連勝負けることを知らなかったと言われる武將武田信玄、しかしその裏には徹底して敵方を取材し、負けそうな戦はしなかつたそうです。

更に情報収集に長けた人と言えば、長州萩の吉田松陰ではないだろうか。

「杉蔵行け、月白く風清し、漂然馬にまたがりて三百程、十数日、酒も飲むべし、詩も賦すべし、今日の事誠に急なり。」

然れども天下は大物なり……。これは安政五年(一八五八)七月、日米通商条約の調印を知った松陰が愛弟子入江杉蔵を江戸に送り込んだ時の言葉です。

この年、松陰の主宰する松下村塾からは、高杉晋作、伊藤博文等後に日本を背負う若者が次々に京、江戸へと旅立ちました。

幕末の動乱期、松陰は日本の将来を的確に見通すため、彼等に徹底した情報活動をさせています。言うならば、松下村塾はさながら長州藩の情報局の様相を呈していました。

たしかに松陰の情報収集力には目を見張るものがあります。それは嘉永四年(一八五二)松陰

二十二歳の時の東北への旅でもうかがい知ることができました。

津軽海峡を望む竜飛岬に立つて、出没する強大な外国船をつぶさに観察したり、農村の作物状況を克明に記録したと言われています。塾の机上には常にさまざまな情報が書き込まれた雑記帳、僂耳長目録(ひじちようもくろく)が置かれていました。松下村塾から日本の中心的役割を担う人材が輩出したのは、そうした松陰の情報に基づいた「実学」の教えがあったからではないかと思えます。

今熊本は新知事の下で、新たな活性化を図っています。

明治に入ってから、細川護久がそれまで停滞していた藩政を思い切った改革したように、後世に遺産を残すべく具体的事業を始めようとしています。素晴らしいことだと思いつつ、しかし、そのためには熊本にとっていまい何が必要なのか、日本全国どの県も画一的色彩を帯びている中で、どんな特徴を打ち出すべきか、国の内外を問わず、徹底した取材を展開する必要があるのでないでしょうか。